

八頭町地球温暖化対策実行計画の実施状況の公表 (令和2年度実績)

■ 削減目標

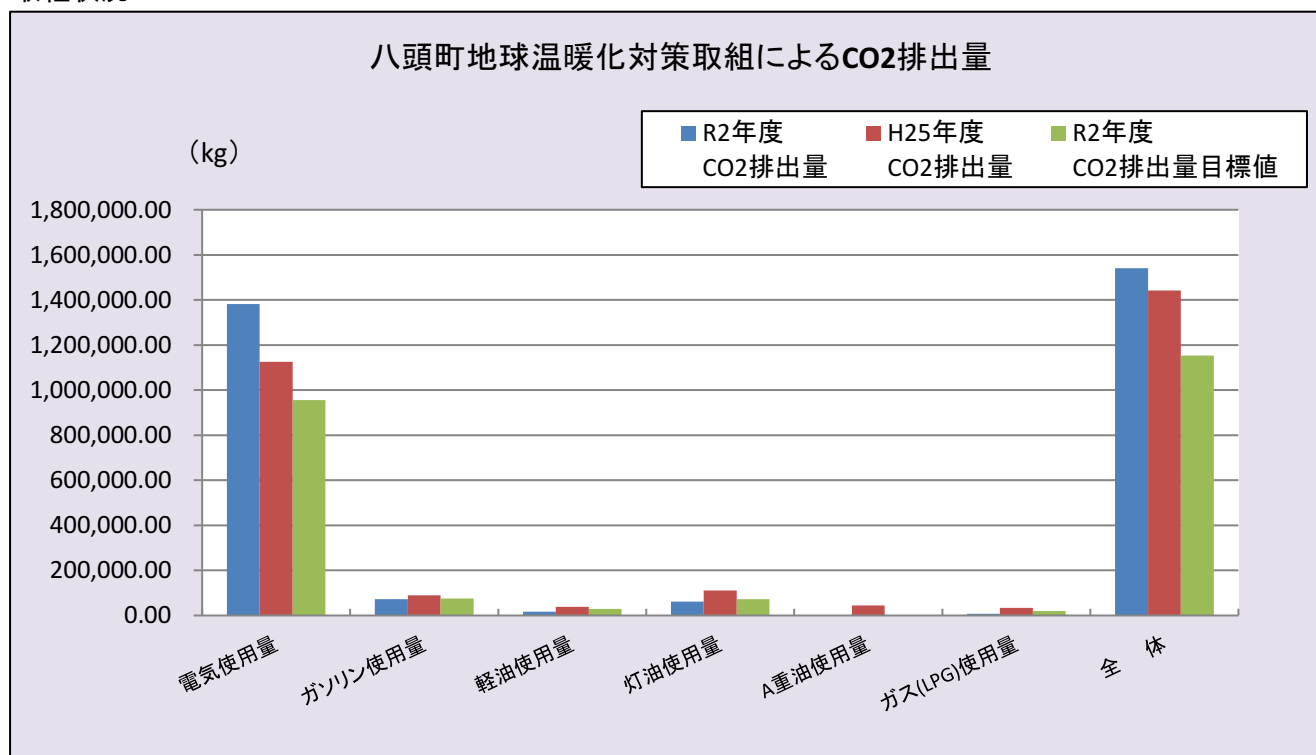
本計画は、平成22年8月に平成21年度実績をもとに目標値を見直し、平成24年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成17年度対比で9.0%削減することを目指してきました。現在、計画第3期(平成30年度～令和4年度)として、二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量を、平成25年度対比で20.0%削減することを目指して取組みを行いました。

■ 各取組項目別の削減目標と令和2年度使用状況

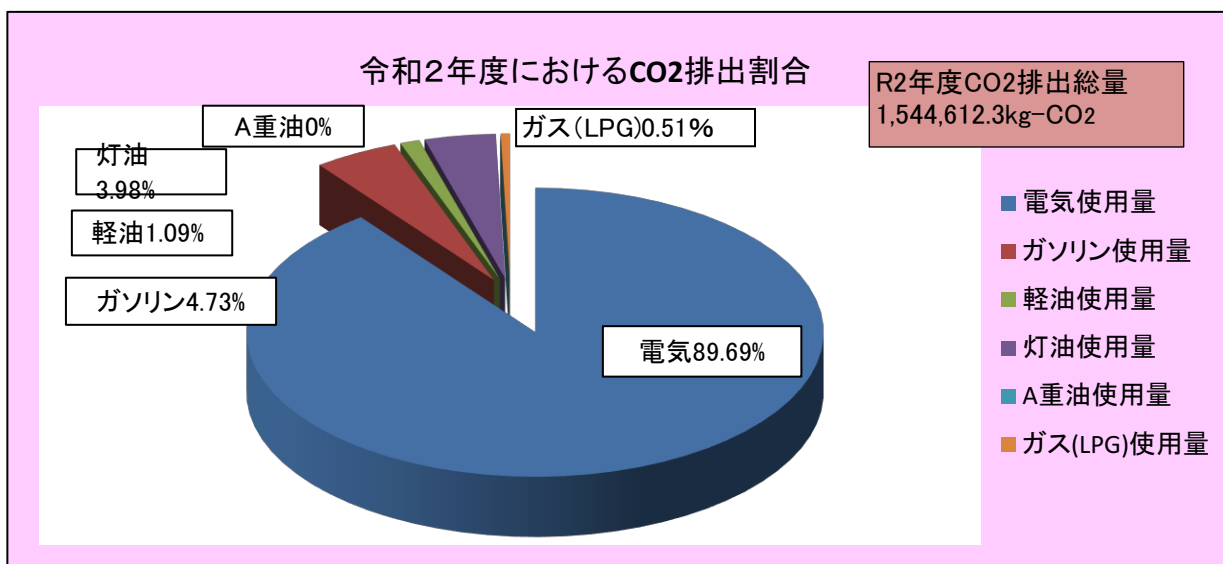
項目	令和4年度目標 (対平成25年度比)	単位	(基準年) 平成25年度 使用量等	令和2年度 使用量等	令和2年度 CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	使用量等 削減率	令和2年度 達成状況
電気使用量	15%以上削減	kwh	1,524,278.0	1,719,761.0	1,350,274.3	-12.8%	×
ガソリン使用量	15%以上削減	ℓ	38,330.1	31,508.2	73,099.0	17.8%	○
軽油使用量	25%以上削減	ℓ	15,075.9	6,497.1	16,762.5	56.9%	○
灯油使用量	35%以上削減	ℓ	44,545.0	24,693.0	61,485.6	44.6%	○
A重油使用量	100%削減	ℓ	16,367.0	0.0	0.0	100.0%	○
ガス(LPG)使用量	40%以上削減	m ³	5,095.9	1,204.6	7,890.4	76.4%	○
紙使用量	可能な限り削減	枚	2,182,477.0	2,632,075.0	—	(※-20.6%)	×
水道使用量	可能な限り削減	m ³	24,698.0	21,286.0	—	(※13.8%)	○
可燃物排出量	可能な限り削減	kg	44,217.4	42,702.8	—	(※3.4%)	○
グリーン購入	環境配慮型製品の積極的購入適合率	%	—	100.0	—	(※100%)	○
全体	CO ₂ 排出量を20%削減	平成25年度CO ₂ 排出量		1,441,643.4		-6.9%	×
		令和2年度CO ₂ 排出量		1,540,988.9			

(注)表のうち、()の数値はH25年度使用量とR2年度使用量で算出した削減率

■ 取組状況



■ エネルギー別CO₂排出割合



■ 各項目ごとの取組結果

項目	取組結果
電気使用量	目標値(対H25年度実績値)15%以上削減に対して、12.8%増となりました。R1年度より使用量は増加しています。例年と比べて年間を通して気温が高く、夏場のエアコン使用は増え、大雪等により冬の暖房使用が増加したことが使用量増加につながったと考えられます。施設の統廃合による使用量の削減と同時に、各施設における空調や事務機器等の適切な利用を進め、職員一人一人が日々継続して取組みを行います。
ガソリン使用量	目標値(対H25年度実績値)15%以上削減に対して、17.8%減という結果となりました。新型コロナウイルスの影響より出張等の減少、乗り合わせや電気自動車の有効活用により、全体のガソリン使用量減少につながったと考えられます。引き続き『公用自動車使用手順書』によりエコ運転に心がけ、乗り合わせや外出業務をまとめて行う等効率的に使用することに努め、電気自動車を有効活用しながら継続して取組を行います。
軽油使用量	目標値(対H25年度実績値)25%以上削減に対して、R2年度は56.9%削減されました。大雪により除雪車の利用は増えましたが、新型コロナウイルスの影響により事業等が減少したことによりマイクロバスの使用減少により、使用量を抑えられたと考えられます。大型車両は、積雪等気象により使用頻度が変わったり、利用回数や運行距離等により使用量が大きく変わりますが、引き続き適切な利用及び経済的な走行を心掛け、更なる削減を目指します。
灯油使用量	目標値(対H25年度実績値)35%以上削減に対して、R2年度は44.6%削減できました。気候変動により使用量が変わりますが、こまめな温度湿度チェックによりエアコンと併用しながら暖房機器を適正使用し、職員一人一人が積極的にウォームビズの取組み、利用者への啓発を継続し、今後も更なる削減を目指します。
A重油使用量	目標値(対H25年度実績値)100%削減に対して、100%の削減となりました。H29年度からA重油を使用する施設がなくなり、ボイラーでの使用がなくなったためです。
ガス(LPG)使用量	目標値(対H25年度実績値)40%以上削減に対して、76.4%の削減ができました。中央公民館など使用量が大きく減っている施設もありましたが、全体的に使用量は横ばいでした。小学校・保育所等の施設は既に統合しましたが、施設のオール電化によりLPガスの使用量が減少することが見込まれます。今後も使用する施設においては業務への支障をきたさないよう無駄を省きながら、削減に向けた取組みを推進します。
紙使用量	H23年度から購入量で集計を行っており、目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、R2年度は20.6%の増加となりました。R1年度より使用量は増加しています。全体的には大幅に減った施設もある一方、大幅に増えた施設も多くありました。今後も内部資料の裏面使用を徹底するとともに、支障のない範囲で両面使用を積極的に行い、ミスコピー抑制のための対策を検討し、データ化する等紙の購入量削減に向けた取組みを行います。

水道使用量	目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、13.8%の削減となりました。今後もすべての施設において節水に心掛け、担当課との連携を図りながら漏水の早期発見に努め、取り組み並びに啓発を行っていきます。
可燃物排出量	目標値(対H25年度実績値)可能な限り削減に対して、R2年度は3.4%の削減となりました。各施設において廃棄物の分別を徹底し、資源ごみとの分別に努めるよう職員一人一人が意識的に取り組みます。また、紙類は古紙回収や再生工場へ持込みを行う等、リサイクルできるものは資源として排出し、可燃物の削減に努めます。
グリーン購入	目標は「環境配慮型製品の積極的購入」で、R2年度のグリーン購入適合率は100%でした。今後もグリーン購入基本方針に基づき、指定物品の100%グリーン購入を目指すとともに、代用品がないものについても、可能な限り環境に配慮した物品の購入に努めます。

■ まとめ

令和2年度の二酸化炭素を対象とした温室効果ガス総排出量は、平成25年度と比較して全体で99,345.5(kg-CO₂)増加しました。これは全体の削減率で見た場合6.9%増となります。項目別に見ると、ガソリン使用量、軽油使用量、灯油使用量、ガス使用量、水道使用量は昨年よりやや減少しましたが、目標達成ができていないため、事務機器の使用方法の改善も含めながら削減に向けて改めて対策を講じる必要があります。公用車使用に関して、再度『公用車使用手順書』に沿った運用を心掛け、公用車を適切に維持管理し、経済的な走行や空調の使用を意識し、職員間で乗り合わせたり、外出業務をまとめる等効率的に使用するよう更に努めていく必要があります。また、電気自動車を積極的に活用したり、燃費の悪い車両は使用を控え早めに交換する、新規導入にあたっては必要性を十分検討し、できるだけ低公害車を優先するなどの取り組みも必要と考えます。可燃物排出量については、各施設において日々の廃棄物分別の徹底に職員一人一人が継続して取り組み、可燃物の減量に努める必要があります。紙類については、できる限り古紙回収に出し、平成28年度から実施している機密文書のリサイクル施設への持込みも継続して行い、今後も可燃物中の紙の排出を減らすよう努める必要があります。紙使用量については、ミスコピーを減らし、両面コピー・両面印刷にしたり、資料の再利用を行って紙の使用量を減らすことや、裏面使用と廃棄用紙の分別を徹底し、事務機器の使用方法を含め再度職員の意識改革を図り、全体で取り組む必要があります。その他の項目についても、日々の積み重ねが大きな削減につながることを理解し、職員一人一人が省エネや環境保全意識を常に持ちながら、具体的な計画に基づき、日々の取組を継続していきます。